

社会保障の改悪許さず、市民に寄り添う行政を



市税軽減措置や敬老乗車証の見直しなど、市民負担増の行革方針・「京(みやこ)プラン」で、国の「税と社会保障の一体改悪」に輪をかけてい

る京都市政。

日本共産党は、社会保障の改悪を許さず、市民の暮らしに寄り添う行政をと求めました。

国保

負担は限界、国保料の引き下げを



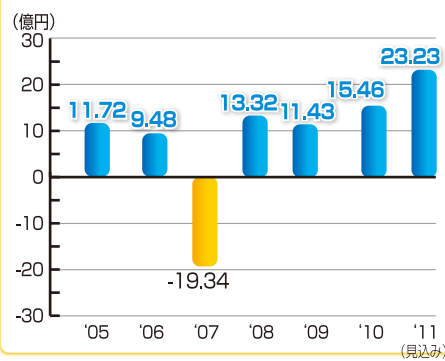
京都市の国保会計は、2011年度も含め、4年連続で単年度黒字となる見込みが明らかとなりましたが、京都市は「国保料据え置き」にとどまっています。

日本共産党市議団は、負担の限界を超えている国保料の引き下げに踏み出すこと、差し押さえ・徴収強化一本やりの方針はやめることを求めました。

閉会本会議では、国民健康保険への国庫負担引き上げを求める意見書案を

提出しましたが、日本共産党以外の会派の反対で否決されてしまいました。

国保会計は4年連続で単年度黒字



子育て

新システム取下げの意見書が可決!



閉会本会議では、「子ども・子育て新システム」関連法案の取下げを求める意見書」が賛成多数で可決されました(提案・賛成会派は共産、自民、公明)。この問題で、市議会では3度

目の国への意見書です。

意見書は、新システムでは一番の課題である待機児童の解消ができず、保育の質の低下や保護者の負担増を引き起こしかねないことを指摘。現行の施策を改善・充実して、すべての家庭の子育てを支援することを求めています。

欠陥施設、ムダの典型

焼却灰溶融施設は契約解除・事業中止を



事故続きの焼却灰溶融施設は、昨年から試運転は止まったまま。再開のメドはまったくたたず、今年度予算に運営経費すら計上できない異常事態です。

日本共産党市議団は、代表質問で、破綻した事業への固執をやめ、住友重工との契約を解除せよと求めましたが、京都市は固執する姿勢を重ねて示しました。

日本共産党市会議員団は、5月市会でも、みなさんの切実な願い実現へ、市政を動かしてがんばっています。

みなさんと力あわせて
願い実現へ
がんばっています。



Column

木造住宅耐震リフォーム助成 すでに500件の申し込みが

喜ばれています

4月から「京都型耐震リフォーム支援事業」がスタートしましたが、申し込みが殺到しています。従来からの耐震改修助成制度も2カ月で目標の30件となりました。

この事業は、屋根や瓦などの小規模な改修工事も助成の対象とし、発注業者を京都に本社をもつ事業者に限るなど、市民が利用

しやすく、大きな経済効果を期待できる制度です。

日本共産党市議団は、木造住宅の耐震改修を促進するためにも、助成制度の拡充をと求めてきましたが、今回の新事業はこれが実ったもの。「更に必要な補正予算を」と要望しています。

